

演題番号：A10

和歌山県における高病原性鳥インフルエンザ防疫対応と今後の課題

○楠川翔悟

和歌山県紀北家保

1. はじめに：2020年12月10日に管内の採卵鶏農場で高病原性鳥インフルエンザが発生。まん延防止のため、防疫措置を実施した。
2. 材料および方法：発生農場は6.7万羽を飼養する採卵鶏農場であり、使用中の鶏舎は9棟で、ひな段ケージ(2段)であった。通報当日(12月9日)、発生鶏舎では1羽の死亡(174日齢、ポリスブラウン)が確認され、両隣の2羽が衰弱を呈していた。簡易検査の結果、7羽中7羽が陽性となり、10日未明、PCR検査によりH5亜型鳥インフルエンザウイルス遺伝子陽性、農林水産省により疑似患者と判定された。これを受け、同日午前9時より防疫措置を開始し、殺処分は11日午前8時に、防疫措置は13日午後7時に完了。24日に清浄性確認検査を行ったのち、29日に搬出制限を解除、1月4日に移動制限を解除した。
3. 結果：現地対策本部指揮のもと、動員者集合場所、消毒ポイント、現地防疫センターを設置・運営し、動員者受け入れにあたった。テント、仮設トイレ等、防疫措置に必要な資材等の搬入に一部遅れが生じたが、現場での柔軟な対応を行うことで、作業の停滞を免れた。一方、動員者集合場所内に

十分な資材置場が設置できず、搬入先が振興局や農場等に分散したため、在庫管理が不十分で農場内に資材の過不足や運搬車両の渋滞が発生、作業動線が混乱した。今後は、搬入時間の設定、資材管理要員の確保等が円滑な運営に不可欠である。また、農場内の家畜防疫員には、動員者・自衛隊員への指示、作業全体の調整等、多数の作業が集中した。加えて、連絡体制が統一されなかったため、現地対策本部等との情報共有に支障が生じ、現地作業の負担増となった。家畜防疫員の作業量を軽減し、防疫に係る判断、指示に重点を置くため、動員者との分業や適宜の交代を念頭に入れた人員運用も必要と言える。更に、防疫措置完了後には、資材の洗浄、消毒に加え、一般ゴミの廃棄等に時間を要した。家畜伝染病の続発に備えるため、防疫措置中から整理整頓に配慮した作業態勢の構築も重要である。

4. 考察および結語：これらの点を踏まえ、今後より適切に防疫対応できるよう、関係機関や市町との連携を強化し、発生時の対応マニュアルや農家毎の防疫計画の見直しを随時行い、防疫演習等を通して練度向上に努める予定である。